

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム紫原
(ユニット名)	あじさい
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市
記入者名 (管理者)	久保 良子
記入日	平成 19年 5月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を毎朝唱和している。		地域住民の1人として生活する事を支えるケアを実践する事を目標に理念の見直し中である。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、受付、ホール等に掲げており、毎朝職員全員で唱和する事で再認識し、実践に向け日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約書や毎月のホーム便りに理念を記入し家族に送付している。又、町内会の会合やイベントに参加したり、グループホームの実践を伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ほとんど毎日入居者と共に外に出て、庭掃除時間近所の方と話しをしたり、近くの顔やスーパー等、公園への散歩時、常に話しかけている。		日中仕事をされて留守がちな近所の方々と祝・日曜日に交流していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や夏祭りに参加して、交流に努力している。避難訓練の参加や、人権擁護教室の参加の呼びかけ、チラシ配りを行っている。 隣より庭で取れた桃をいただきまして、お礼に入居者さんが作ったらっきょう・梅干しを差し上げる。近くの子供たちが遊びに来たり、地区の小・中学生がボランティアに来ている。		当ホームの回りの交流はもとより、近辺(5丁目～7丁目や1丁目)の方々とも町内での行事等に参加して交流を深めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市営住宅に住んでいる町内会長や民生委員と話し合いの場を設け、住宅に住んでいる高齢者の色々な問題について話し合っている。又、地域である研修等に参加したり人材育成に実習生の受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し改善に向けて検討し、実践に繋げる為の努力をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	だいたい2ヶ月に1回開催し、現在取り組んでいる。内容について、出席者に報告し開示している。又、意見や要望をもらう様になっている。		地域の沢山の人達に参加してもらい、色々な意見をもらいたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口に対して、年間の行事予定表やホーム便り等を送付したり持参しているが職員との交流はない。		今後市町村の担当者に意見をもらっていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について研修に参加している。現在必要な人はいないが必要な人には活用していきたい。		全職員研修へ参加したり学ぶ機会を持ちたいと思っている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修等に参加したりミーティング等で2ヶ月に1回は話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は時間をとり、利用者・家族の話しを聞き、納得されるまで説明等行っている。解約時も充分話しを聞いている。</p>		<p>長期の入院等で退居された時、数回は見舞い等行っているが、継続してフォローしていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族より意見・苦情があった際はゆっくりと聴き、書面に記し、スタッフ全員で話し合っている。年1回介護相談員が訪問し、利用者の相談にのっていただいている。意見書の設置もしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月行事予定表に個々に写真をのせ、生活ぶりを書き、又裏に毎月の小遣いの出し入れをコピーし家族に送付している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段より家族との会話を大切にし、相談苦情解決処理体制をとっており、ミーティング等で話し合っている。又、地域の民生委員の方にも協力いただき窓口になっていただいている。</p>		<p>御意見箱入れの設置も行っているので口頭で伝えづらい際など入れやすくする様に検討する。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の申し送り時や月1回のミーティング時に職員の意見を出し合い、皆で考えたり又、言いにくい意見はレポートとして提出してもらっている。</p>		<p>1日を通して気付いた事や意見があった際は、夕方の終礼時にも聞く場を設ける。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要時、職員間で担当の係りを変更したり、早い段階でわかっている際は、ミーティングや申し送り等で勤務の調整を行っている。</p>		<p>遅出・早出の検討を行っている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の配置を固定し、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。新しい職員が来た場合は、利用者に紹介し、利用者からホームの事を教えてもらう工夫をする。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な研修の資料を見る所に提示し参加の希望があれば勤務扱いにしており、研修しやすいようにしている。又、資格を取るため養成講座に通っている。		全職員が自ら進んで研修等へ参加するよう取り組みたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月谷山地区の研修に参加し、他のグループホームや老健に勤めている職員の方々と困っている事、悩んでいる事の意見を出し合い、わからない事は勉強しながらサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティング等で意見を出しやすい環境作りを行い、又、言いにくい事はレポートに書いて出してもらっている。		運営者との食事会等を開き、職員が運営者へ意見等出せる様にしていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の健康診断を行ったり、労働条件や就業規則等の作成をしている。又、資格取得に向けた支援も行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が悩みを気楽に相談に来られる。その都度、本人の希望や不安を理解する様に努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での相談、来訪による相談を受け、又、ホームでの「催し物」の後に懇談会を行い、よく聞く機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いや状況等を確認し、改善に向けた助言・相談を行っている。現在、訪問看護を利用している方もいる。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの初期情報をスタッフが共有し、他の入居者にも声かけしたり、本人が馴染めるまで家族や友人に頻繁に来てもらい安心感をもって貰うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者さんは人生の先輩であり、普段から教えてもらう事は沢山ある(毎月のおやつ作り、ねったぼやおはぎ、餅つき等)。今迄の暮らしぶり等、その様な場面が多くもてる環境作りをしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、近況の報告をしたり写真を見ていただく事で、本人を近くに感じてもらっている。		家族に協力頂ける際は、病院への受診等声かけしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思いや様子を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりして、より良い関係が保てる様に努めている。		月に1度でも良いから途切れなく面会して頂き、会話をしてもらえる様、日頃の状態をこまめに報告、相談していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の人、知人、家族と良く訪ねて来られる。間隔が開いている時は手紙で促している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の手伝いでお互い関わり合える役割分担をしており、又、ホールでのテーブルの席替えをする事で孤立せず良い関係を保っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時折、面会に行き会話をしている。電話が来た際も会話している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人1人の出来る事・したい事を表出できる環境作りを行っている。		帰宅願望の強い方に対し、一緒に出掛けているが家族にも自宅や墓参り等に外出のお願いをしていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄使っていたタンス、服、仏壇やアルバム等を持ってきてもらい、ご本人・ご家族にどんな生活をしていたのかを聞き、今迄の生活に近づいた環境作りに努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りや一人ひとりへの声かけ、会話や表情・動きからその人自身を把握する様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、アセスメントを含めミーティングや朝の申し送り時スタッフに意見をもらい、介護計画の作成に活かしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人・ご家族・主治医・スタッフが話し合う機会を作り、意見や気づきを大事に反映させながら、入居者さんの要望、又は変化のあった時は見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はもちろん職員全員が目を通し、申し送り時やミーティングで話し合っている。又、毎日の日誌に全スタッフの確認のサインをするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方からの家族に対しては、居室に泊って頂いたり、食事の提供もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の方が、利用者の話相手や楽器演奏に来て下さる。又、地域の小・中・高校生及び、親の方々が職場体験・ボランティアに来られ、協力をもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャー、サービス事業者とは連絡を取り合っているが、現在は利用をされる方はいない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、包括支援センターとは関わりは持っていない。		地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加してもらい、今後協力関係を築いていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の全面的協力もある。協力病院以外の受診出来ない利用者に訪問看護や主治医に往診してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神保健師及び認知症専門医と相談、連絡を取っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の健康状態に変化があった際は直ぐ看護師に相談し、往診等を受けている。入居時は全員CT、採血等の検査や肺炎球菌の予防接種を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は、必ず電話連絡や面会に行く。担当医に必ず症状の説明を受けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の人は、今まで数名、入居されていたが食事を摂れなくなった時に、家族の希望で医療機関へ移っていかれた。		本人、家族の希望があれば終末期のケアを行っていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在はいいないが、今後そういう状態になる方が居られたら、家族の意向をとらえ医師と連携をとり、安心した最期を迎えられる様、家族の意思を確認しながら取り組んでいく体制作りをしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間で密に連絡を取り合い情報交換を行っている。又、馴染みの職員が機会を作って訪問にいき、ダメージを最小限になる様努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員全員がご本人の誇りやプライバシーを大切にすることが言葉かけや対応をしているとはいえない。	本人の傷つきやすい部分はどんな小さな事と思えてもカバーをする事を徹底していく。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	1人1人に合わせた声かけをし、意思の疎通を図れない方には表情・動きを読み取り、食べたい、トイレに行く等ジェスチャー等で本人が決める場面作りに努めている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを守りながら一緒に遊び、楽しむ事を行っている。買い物や散歩等1人ひとりの状態や思いに注意しながら対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の方々の希望に応じ家族と美容室に行かれたり、カットや毛染めに出張してもらっている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃが芋の皮をむいてもらって、カレーを作ったり一緒に準備、食事の片付けをしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	四季折々の菓子を作り、又、収穫した芋をふかしたり、梅で果実酒を作ったり日常的に楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	排泄のパターン(間隔)を把握しトイレ誘導する事でトイレでの排泄を促している。また、排泄の失敗も少なく、オムツを使用する人はいない。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	入浴日、時間帯が決まっているので、一人ひとりの希望にはできていない。仲の良い方同士は一緒に入ってもらっている(本人達がOKの場合)。		入居者の希望に沿った入浴時間で行えるようにしていく。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	日中活動を公園散歩へ行ったり、体を動かすよう心がけ、安眠できるように支援している。又、寝つけない方には添い寝をしたり、温かいミルクを飲みながらおしゃべりをしたりして		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	普段の会話や様子から好まれる手伝いを導き出し、台所の仕事、清掃、洗濯物、畑仕事や裁縫など様々な役割をしていただき、笑顔がみられる。又、ラッキョウ漬けや梅干作り等入居者さんに教わりながら一緒にしている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	継続して、一人ひとりにお金を所持させる事は難しいが、買い物へ行った際の精算時にお金を手渡し会計して頂いている。		定期的に”お買い物デー”を計画して、ショッピングの楽しさを味わって貰う。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	散歩を始め、買い物など訴えのある際や声かけし一緒に出掛けている。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	他の利用者共々、そうめん流し、動物園、弁当を持って花見、食事の店に出掛けている。家族と出掛けられる利用者も多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが希望した場合、家族に電話をかけられたり、手紙を出してあげたりと支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関ホールに花を置いて明るくし、腰かけを置いて座って話せるように工夫されている。家族に利用者の友人や隣近所の方に訪問する様声かけしてもらっている。訪問時間は定めていない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等でその日のケアを振り返り、身体拘束が行われていないか点検している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室、ホール、玄関に鍵をかける事はせず、外出しそうな様子時は止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒に出かける。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じホールで記録等の事務作業をしながらさりげなく全員の様子の把握をするよう努めている。入居者のほとんどが起床時から就寝時までホールにおられる事が多いため、所在や様子の把握や安全への配慮もしやすい。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なた、かなづち、ノコギリ等は鍵のかかる所に保管しているが、見守りで使用している。包丁も目の届かない所に保管しているが一緒に調理する時は使っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者さんの状況に応じて予測される事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。万が一の事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の連絡方法や事故発生時において初期対応のマニュアルを備えている他、救急隊へ依頼して応急手当の講習、訓練を行っている。		地震発生時等の様々な事例を想定し、もっと訓練する必要がある。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練などを昼夜を想定し、利用者にあった方法で避難誘導の訓練をし、毎回ホーム周辺の方へはチラシを配り、お知らせお願いしている。		特に夜間での訓練をもっとすべきである。又、地域の方へ協力をしていただける様に訓練の様子や、地域の方が協力していただく事で助かる点などチラシ作成し、回覧板で知らせていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の恐れのある人等は必ず家族に今の利用者の状態を説明し、リスクについてや起こった時の対応について説明し納得してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的にバイタルチェックを行い、又、利用者との日頃の会話や様子などから異変を発見する。その日のリーダーへすぐ報告し、看護師への報告、必要時は受診をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんの服用している薬の名前、効果、副作用を表にして職員の見える所に貼ってあり、全職員が周知するまで何度も見るよう声かけしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつ時にヨーグルトや芋を食していただき、入浴後、入眠前など牛乳を飲んでいただいている。又、食物繊維の豊富な食材でのメニューを提供しており自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりに声かけ見守りし、自分の歯の方へは仕上げ磨きを介助し、義歯の方は、夕食後薬にて洗浄をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の栄養士によりカロリー計算をしてもらい、指導を受けている。又、水分は食後のお茶、10時・15時のお茶時間や外出後の水分補給を必ずしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出から帰ってきてからの手洗い、うがい、又その日の食事当番は台所に入る時は石鹸でしっかり手を洗い、カネパスで手指消毒をしている等予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ほとんど毎日買物に出かけ新鮮で安全な食材を使用している。ふきんは使用せず食器乾燥機を使い、まな板は漂白し、冷蔵庫も定期的に掃除し、食材の残りの点検を頻繁にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物前には花を植えたりして明るく見えるようにしている。玄関前にベンチなどを置き、ゆっくり話しをしたりできるようにしてある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらおうよう、3月ひな祭り・5月こいのぼり・7月七夕かざり等や季節に咲く花を生けている。ホールは音楽を流し、心地良く過ごせるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、ソファをホールに置き、玄関の内外にベンチを置いている。利用者同士でお手伝いや会話される際に畳で過ごされたりベンチで涼まれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使われていた家具や仏壇、アルバム等を持って来ていただき、その中で過ごされる時間がある。又、以前自分で作られた手芸品・陶芸品等も居室内に持ってきてもらい飾っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温と大きな差がないよう、温度計と入居者さんの様子をみながら調整している。ホールは換気を掃除時、食事後等に行っており、トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	流し台やもの干しの高さは入居者さんが使いやすい高さになっており、調理の手伝いや茶碗洗い、洗濯物干しを積極的にされている。又、浴室・トイレ・廊下等に手すりを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋には野菜のオブジェや表札をつけ、自分の部屋がわかる様にしている。部屋がわからず迷っている方には「さん。玉ねぎの部屋ですよ。」と声かけしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花や野菜を植え、入居者さん方と草とりしたり、水かけして日常的に楽しんでいる。又、玄関先にベンチを置いて涼んだり、日向ぼっこが出来るようにしている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の関わりを大事にしており、地域の小・中・高のボランティアや職場体験、地域の方々のボランティア（歌や踊り、楽器演奏、マジック）を受け入れている。又、幼稚園児の運動会や地域の夏祭りに参加させてもらったり、近所の方にグループホーム内で漬けたラッキョウや梅干しをおすそ分けをして、お礼に庭で取れた果物をもらったりと、沢山のお付き合いをしている。

スタッフ全員にオムツ体験をしたりして、安易にオムツ・パット等を使用しないようにしている。